

UP!

香川大学創造工学部 広報誌「アップ!」

Number
02

香川大学
創造工学部

KAGAWA UNIVERSITY
Faculty of Engineering and Design

2026年3月発行

【アップ!】

フ
—
ウ
—
ス
—
プ
—
ス
—
と
—
は
—
っ



研究室とはコミュニケーションを 基盤に創造を育む場

研究室、教員室、事務室、図書館、実験棟等、キャンパス内にはワークスペースがたくさんあります。ワークスペースを働く場所（空間）だけと捉えず、コミュニケーション・チームの調和・働く人の満足度など職場環境として見つめ直そうと、吉田学部長から4人の若手事務スタッフに語ってもらいました。

学部長 吉田秀典

よしだひでのり
1995年東京大学大学院工学系研究科
土木工学専攻博士課程修了。
2005年香川大学工学部教授、
2015年10月～2025年9月
香川大学副学長。
スコッチ・ウイスキーの
シングルモルトを愛する。

研究室は創造と対話の場であり、 新規研究や社会実装につながる拠点

吉田 私個人のワークスペースは研究室。研究室は創造する場です。そして創造したことを、学生なり共同研究者と一緒に対話をして、新しい研究や社会実装に繋げていく場だと思っています。

学部の各ワークスペースは、学生さんと教職員さんがストレスなく、かつ和気あいあいと仕事をしたり、勉学をしたり、研究する場にしたいと考えております。スペースというと、空間だけが頭の中に思い浮かぶと思うのですが、私にとってはそれだけではなく、各自の考え、そこで交わされる議論も含めています。このことは学部長選出の面談時に、まず教職員の方々がストレスなく働ける場所を創出したいと申し上げました。

教員室・学生スペース・事務室がガラス等で可視化され、活動が見える構造

吉田 私の研究室は4年生ばかりが固まるとか、大学院生が固まることのないよう、大学院生



▼会議室にて、2025.12.22撮影

学部長
吉田秀典さん

総務課会計係
佐野小雪さん

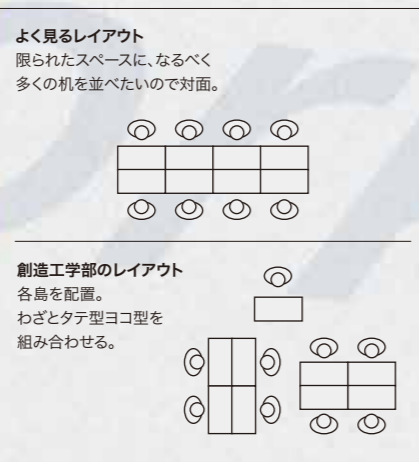
学務課技術係
福岡隆彦さん

総務課庶務係
三原千明さん

学務課学務係
高倉典子さん

と学部生入れ替わりをしたり、あるいは研究グループごとにとまっています。グループが画一的にならないように、あるいはその必要のないグループピングが起こらないようにと考えています。

創造工学部のワークスペースの特徴として、縦一列に机を並べないで、各島を作って配置しています。



席に座ると決まった人の顔しか見えないのではなく、全方向的に見えるように机が配置されています。特に庶務はうまく配置。このレイアウトは昔から採用されています。

席のレイアウトの他に、香大着任時(1999年4月)に違和感があったことが3つあります。まず第1に教員室のドアにガラスがあることです。今はスタンダートかもしれませんが、当時はビックリです。教員室ではテスト問題作成もあれば入試問題作成もあるので、本来見えない方がいいわけです。それが外から見えるのです。2つの目は学生さんのいる研究室。ここはタコ部屋というイメージが強かったです。研究室ごとに部屋があって、扉があって、その向こう側は何をしているかわからない。しかし、ここは完全なオープンスペース。研究の打ち合わせの内容とか話している内容は外部に漏れ、これで研究ができるのだからかと心配したほどです。3番目が事務の部屋。私が学生から教員になった頃は教員部屋と同じで、外から丸見えということはありませんでした。ここは見えました。学務係には学生対

応の窓口があります。窓口があるのはわかるのですが、すりガラスじゃなくてガラスで中が見えます。庶務係も窓があります。教職員含めて全て可視化されています。外から見るといのは、仕事内容に関して理解してもらえらる以外に、ハラスメントなどが起こりにくい環境になります。改めて、ワークスペースの風通しがいいのはなぜだろうと考えたときに、この学部の成り立ち、生い立ちから、そのような構造やレイアウトを採用したのではないかなと個人的に思っています。



総務課庶務係
三原千明さん

先生や学生との関わり、自席や働く環境を含めて、もう少し視野を広く大学全体のワークスペースを見つめたいと思います。

●仕事内容は職員の労務管理（勤務時間の管理、各種休暇管理、在宅勤務など）、教員・学生の出張の申請、研究助成等の各種申請などです。ほぼ毎日事務室で勤務しています。創造工学部は静かで広々としたキャンパス。学びや研究に集中できるキャンパスだと思います。



学務課学務係
高倉典子さん

吉田学部長がおっしゃる通り、座席の配置、職場の雰囲気、課内の情報共有、相談のしやすさを含めて風通しがいいと感じています。この対話をきっかけに、更に効率的な作業ができるよう、ワークスペースを見直します。

●仕事内容は奨学金及び授業料減免、学籍異動、国際関連業務(学生派遣、国際イベント)などです。基本的には事務室で業務を行っています。学生対応で窓口に出ることもあります。



総務課会計係
佐野小雪さん

ワークスペースを自席とばかり見てしまって、なかなか広い視野での考えが思い浮かびませんでした。吉田学部長の話聞いて、私も様々な視点で見ることができるようになっていきたいと思います。

●仕事内容は予算の執行。パソコンを使った作業が中心です。普段の業務(事務処理や資料作成)はほとんど事務室で行い、落ち着いた環境で作業しやすいです。自席の卓上カレンダーがお気に入りです。



学務課技術係
福岡隆彦さん

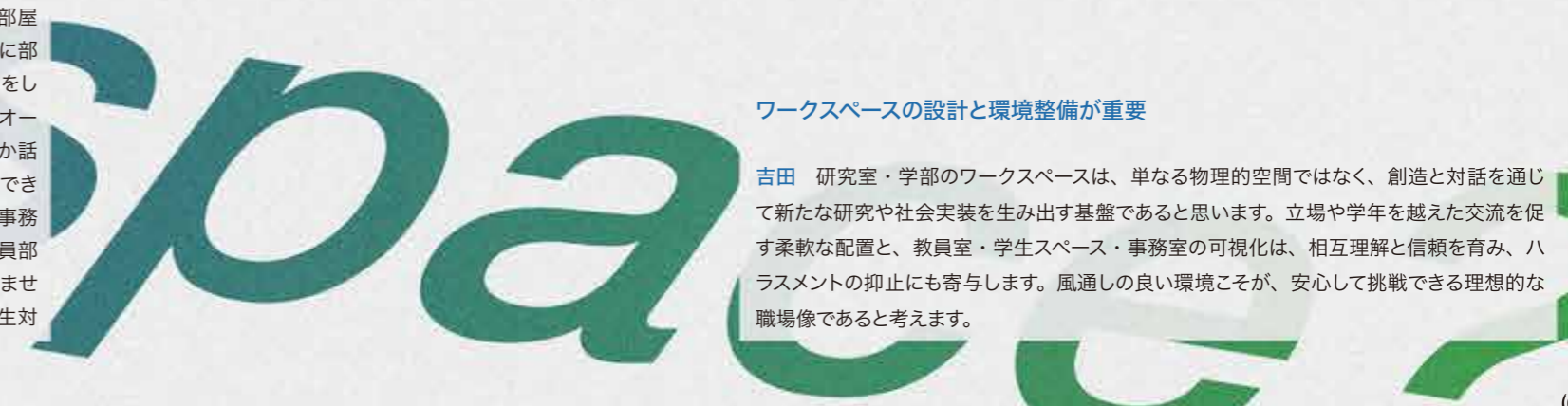
机の配置はここしか知らないのですが、吉田学部長の説明を聞いて納得しました。自分のワークスペースを見直すいい機会になりました。

●仕事内容は、主にプログラミングなどの授業支援、研究活動の技術的サポート、分析機器の管理・運用を担当。業務内容によって複数の場所を移動しています。事務室でのデスクワークに加え、実験室や研究室での機器対応、学生対応など、状況に応じながら仕事をしています。

▲各人のデスク(本人撮影)

ワークスペースの設計と環境整備が重要

吉田 研究室・学部のワークスペースは、単なる物理的空間ではなく、創造と対話を通じて新たな研究や社会実装を生み出す基盤であると思います。立場や学年を越えた交流を促す柔軟な配置と、教員室・学生スペース・事務室の可視化は、相互理解と信頼を育み、ハラスメントの抑止にも寄与します。風通しの良い環境こそが、安心して挑戦できる理想的な職場像であると考えます。



今に至る先生のエピソードを教えてください

子どもの頃から続けていたのは空手。高校はいわゆる地元の進学校へ。入学後すぐに、校歌・応援歌練習が1週間ほどあり、全曲完璧に歌えないと正座、、、《歴史の長い、パンカラな高校(笑)》3年の学園祭では実行委員長に選ばれました。部活も勉強も熱心にやったという記憶はなく、ワチャワチャした高校時代だった気がします。

しかし、今に続く物理や宇宙は、この頃から漠然とやりたと思っていました。ビリヤードは、物理や宇宙により興味をもったキーワードの一つですね。ある時、友達に誘われてやってみました。初めは適当にやっていた全くだめなのですが、ボールの狙い方を教わると、高校の物理でも学ぶ「二体問題」の90度分離がラシャの上できれいに成り立つことを知

りました。とても美しいスポーツだと思い、物理やビリヤードにめりこんだことを覚えています。その後、大学でもビリヤードサークルに所属し、プロやアマチュア日本一になった仲間と切磋琢磨しながらの大学生活でした。そんな中、博士課程進学を決意したのは学部の卒業式。厳格な雰囲気の中で、角帽・ガウンを着た教授陣と博士課程を終えた先輩たちが一緒に歩いて登場しました。また博士修了者は、ひとりひとり壇上で証書をもっていました。ところが、4年生の自分は座って話を聞いて終了。座っているだけは嫌だと勝手に闘志を燃やし、自分も博士課程を修了して壇上に上がることを決意しました。《まだ若く、ホントに生意気》

博士課程では、多くの先生方にご指導頂きながら宇宙構造物工学の研究を行い、前職の室蘭工業大学でも宇宙構造物工学の教育・研究に従事。その後、香川大学に着任しました。

※編集部注：()は先生のつぶやき

造形・メディアデザインコース

時を忘れ、仲間と知を極める挑戦空間

研究室は、さまざまな思い、考え方をを持った仲間が集い、時間を忘れて一つのことに打ち込むことができる場、教員や学生の垣根なく、平等に議論し合える場、純粋に研究に向き合うことができる場、仲間といろいろな話をしながら時には人生観も変えてくれる場、例えるなら、ドラゴンボールで修行に使われる「精神と時の部屋」。それが研究室。

造形・メディアデザインコース 准教授

勝又 暢久

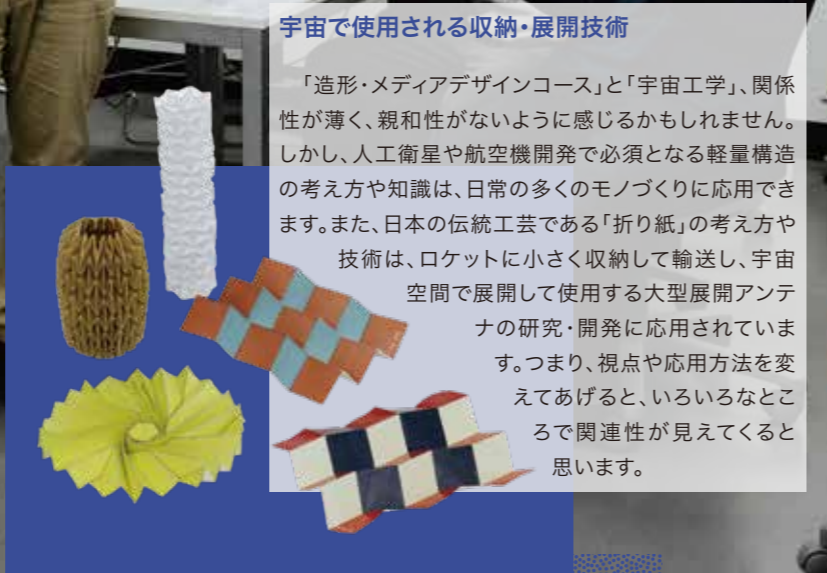
- かつまたのぶひさ
- 2002/4~2006/3(4年間)
- 早稲田大学理工学部機械工学科
- 2006/4~2008/3(2年間)
- 早稲田大学大学院理工学研究科機械工学専攻
- 2008/4~2011/3(3年間)
- 早稲田大学大学院創造理工学研究科総合機械工学専攻
- 2009/4~2010/3(1年間)
- 早稲田大学理工学術院(創造理工学研究科)研究助手
- 2010/4~2013/3(3年間)
- 早稲田大学理工学術院(創造理工学研究科)助手
- 2013/4~2020/3(7年間)
- 室蘭工業大学大学院工学研究科もの創造系領域助教
- 2020/4~
- 香川大学へ



教員紹介



研究室紹介



宇宙で使用される収納・展開技術

「造形・メディアデザインコース」と「宇宙工学」、関係性が薄く、親和性がないように感じるかもしれません。しかし、人工衛星や航空機開発で必須となる軽量構造の考え方や知識は、日常の多くのモノづくりに応用できます。また、日本の伝統工芸である「折り紙」の考え方や技術は、ロケットに小さく収納して輸送し、宇宙空間で展開して使用する大型展開アンテナの研究・開発に応用されています。つまり、視点や応用方法を変えてあげると、いろいろなところで関連性が見えてくると思います。

キャスコ株式会社さん(香川県さぬき市)と共同研究で生まれたゴルフクラブ「VATIC venero」

折り紙の話をもう一つ。新ORIGAMI-Carbon Soleを採用した新ドライバーが、2025年9月にVATIC GOLF(パティックゴルフ)より発売されました。折り紙工学を応用したソールの凸凹形状をデザイン。ボールのインパクト時に、クラブヘッドが2方向に同期的に変形(この変形に折り目形状が関係)し、クラブヘッド全体で反発エネルギーを生み出し、強い弾きで、ボール初速度がアップします。



今に至る先生のエピソードを教えてください

小学校は剣道、中学は野球、高校は柔道と美術。大学受験するときに構造計算書偽造問題(姉歯事件、2005年)があり建築学科の人气が落ち、受験科目(二次試験)にデザインもあることから建築学科を受けました。この試験対策の考え方と対応が、この後にもできます。

建築学科はデザイナーや建築家を目指して入学してくる人が大半。ただ、どちらも競争が激しく、在学中にエンジニアへ方向変換。それも構造や防災という花形分野は避けて、設備や環境に。学生からの認知度も低く、競争はないだろうと考えました。(ところが、入ると大変でした)私が修士論文を書いている頃は、低炭素化、カーボンフットプリントをテーマとする研究も多く、私もその方面に興味を持ちテーマを選びました。

卒業後は同テーマに関連するシンクタンク、コンサル系の会社を狙って就活。面接が終わった頃に、東日本大震災(2011年)が発生。節電対策をどうするのか、ということが社会共通のテーマとなり、業務内容も思っていたものから随分変わりました。

二年ほど会社に勤め、ちゃんとエンジニアの勉強をしようと思い、博士課程に戻りドクターコースに入りました。この頃になると節電も落ち着いて、時代は水素かなと思ひ、水素燃料電池の制御や集合住宅の導入というテーマでシミュレーション系の研究をしました(研究テーマは給湯)。自分なりに論文も書いて、ドクターもとれて、科学研究費助成事業も採用され、よし、これでなんとか研究やっていけると。が、香川大にきたときにコロナ禍。社会から換気や空調系の研究をやるのが非常に強く求められまして、窓開け行動の実測や、室内の空気を計測するという研究をやって、五年経ったという感じです。

社会から規定されないで、研究テーマや研究の方向性は自分で決めたい思ひはあったのですが、思うようにはなりません。自分の研究室に所属する学生さんも、もしかしら第一希望の研究室ではなかったかもしれません。でも、そんなことは社会に出たらいくらでもあります。私の研究テーマもどンドン変わっていますし、民間企業に就職したかと思えばドクターに帰ってきたり。大きな社会的出来事によってトレンド変更があっても、いちいち凹んではられません。新しい課題を要求されることを受けとめ、それに応えていこうと考えています。(一本筋が通っていないといけません。自分の筋は一体何なんだろうかと考えるときもあります苦笑)

困ったら研究室

なんとなく困ったとき、悩んでいるとき、研究が上手いかわからないとき、私も学生さんも、おそらく「研究室」とは、座って頭を抱えたり、誰かに相談したり、「気分転換に遊びに行こうぜ!」と誰かを誘ったり…何かの行動の起点になる場所だと思います。

もちろん生きた人間が相手ですので、AI(チャッピー君)のように全肯定してくれたり、それらしい言葉も帰ってこず、「どうしたらいいんでしょうね…(匙投げ)」のようなつれない返事が返ってくることもありますし、「それやってなんか意味あんの」みたいな、辛辣なコメントを貰うこともあります。必ずしも明確な答えや方針が示されるわけではありません。

しかし、自身の大学院在籍時の経験からも、また、自分の研究室を構えてからも、大学教育の最も重要な事柄は、この研究室の中にあると思います。昔の徒弟制度的色彩の強い小講座制研究室は最近の時勢とは合わないところもありますし、研究コミュニティの最小単位としての役割も変わりつつありますが、学生自治的な側面もあり、研究プロジェクトにおいては上意下達?的な雰囲気もあり、中々に得難い体験の機会だと思います。また、そういうことができるよう、学生のみなさんと運営したいと思っています。



建築・都市環境コース 講師

山本 高広

- やまもとたかひろ
- 2006/4~2010/3(4年間)
- 九州大学工学部建築学科
- 2010/4~2012/3(2年間)
- 九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻
- 2012/4~2014/5(約2年)
- 株式会社住環境計画研究所研究員
- 2015/4~2018/3(3年間)
- 九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻
- 2018/10~2020/3(1年半)
- 九州大学大学院人間環境学府助教
- 2020/4~
- 香川大学へ



教員紹介



研究室紹介

研究室は、人と会って話し、
理解し合っていくところ。

新型コロナの流行を経て、
学生の様子が少し変わってきました。
他人と面と向かって話し、
お互いの理解を深めることが苦手の
学生が増えてきているように思います。
オンラインで会話することも可能ですが、
直接会って話すのとは明らかに違います。
研究室は、親しい人とは異なる他人と
話す良い機会を与えてくれると思います。
研究室に来てコミュニケーションをとり、
人と相互理解する訓練を行うことができると思います。
(以前は当たり前でしたが、今はそうでないと思います)
情報系の研究室では実験をしないため、
研究室が必要ないような錯覚に陥ります。
しかし、研究室が相互理解の訓練の場であるとすると、
その必要性は明らかです。
社会に出る前の訓練の場としての価値は、
前よりも高まっているように感じています。

人工知能・通信ネットワークコース 教授

丹治裕一

たんじゆういち
1988/4~1991/3(3年間)
静岡大学工業短期大学部電子工学科
1991/4~1993/3(2年間)
徳島大学工学部電気電子工学科
1993/4~1998/3(5年間)
徳島大学大学院工学研究科博士課程
1998/6~2000/3(約2年間)
上智大学理工学部助手
2000/4~
香川大学へ



教員紹介



研究室紹介



(出版物)

機械学習と回路
- 脳回路の実現に向けて -
共著

Artificial Intelligence and Communication Networks

今に至る先生のエピソードを教えてください

静岡大学では、先生から言われて電子回路作成のアルバイトをしていました。場所は静岡大学の研究所。周りの人はドクターやマスターばかりで、(当たり前ですが)勉強を一生懸命やっていました。このときに感じたことや経験が、自分の研究のベースになった気がします。その後、徳島大学へ編入。知り合いを作ると書道部に入部し、学園祭のソフトボール大会では優勝も! 体力には自信があったし、同級生にもうまい人がいて毎年優勝していました。まあまあ楽しめた時代です。

電気電子を勉強していたので、就職もそういう会社を考えていました。それが、コンピューターを多数揃える研究室があることがわかり、更にそこの先生は静岡大学の先生の知り合いの知り合い。(当時はコンピューターがそれほどない時代。UNIXとか言っていた時代)。そのことに惹かれ進学、マスターまでいきました。

卒業前には教授推薦で、ソニーと富士電機を面接。ところが2つとも不採用。なぜ落ちるのだろうと考えると、自分は研究やりたくて就職するという気持ちが全然なかったことに気づきました。(採用側に見抜かれたと思っています)ですから、自分には研究しかなかった。もしソニーに採用され、研究を続けることができれば、世界最強のイメージセンサーを作っていたかもしれません。

約30年前に、今で言う人工知能を動かすニューロチップを試作

約30年前にFPGA(Field Programmable Gate Array ※1)という書き換え可能なデバイスがありました。そのFPGAベースで「ニューラルネットワーク・デジタルチップ(ニューロチップ ※2)」を試作。東京都の助成により約200万円のボードを使用し、画像処理実現のため秋葉原でメモリを調達・増設。当時はデジタルでニューラルネットを実装する発想が少数派で、評価も厳しいものがありました。現在はニューロチップを搭載したAIPCが一般化し、NVIDIA(エヌビディア)を中心に生成AIが社会実装段階へとなっています。30年前の試作が現在のAI潮流への始まりだと考えています。(ちょっと自慢です)

※1 実際使用する現場で、デバイスの外部から設計情報を書き込むことが可能な論理回路が集積されたデバイス。通常の集積回路(IC)では、論理回路を製造後に変更できません。エンジニアが新しいプログラムを構成することで、内部の回路構造を何度も再構成できます。用途にあわせた仕様変更が実行できます。

※2 ニューロチップは、人間の脳が持つ情報処理の仕組みをハードウェアとして再現しようとするものです。脳内のニューロン(神経細胞)とシナプス(ニューロン同士の結合部)の構造と機能を模倣し、それらを電子回路で実現しています。

大学の内外
理論と実践、
人々がまじりあう場所

「研究室」は言葉どおり捉えれば、
大学内にある私や学生たちの部屋を意味します。
しかし、研究をする場所として捉えた場合、
その意味は大きく広がります。
防災の研究では、実践と理論の融合が不可欠です。
机上の理論だけでは真に人の命を守ることはつながりません。
実践を通じた理論の展開が必要です。
「実践的に理論を生み、理論的に実践する」、
この思想を踏まえたとき、研究室は大学の内だけでなく、外にも広がります。
そのような研究室を通して、いろんな関係者が集まり、語り合う場所、
それが私にとっての研究室です。
そこでは、大学という境界を越えて、理論と実践、
専門家と現場の人々がまじりあい、
言葉を紡ぐ場所が日々生まれていきます。

今に至る先生のエピソードを
教えてください

小学生の頃から空を観察するのが好きでした。
新聞に掲載されている天気図を毎日切り取り、
ノートに貼って、自分が住む場所(三重県伊勢市)
の天気予報をしていました。そのうち、全国の
天気や週間予報もするようになっていました。専門
的な知見から見れば、天気図一つで、そのような
予測は難しいでしょうが、子どもなりに試行錯誤
する毎日。実家に帰ると、その頃のノートが今も
残っています。

私の研究領域は気象の先にある気象情報。気象
だけでしたら、理学部の地球物理に進むという
選択肢が一番の王道です。しかし、私の関心は気
象と社会の関係にありました。また高校生の頃に
COP3(国連気候変動枠組条約第3回締約国会
議、1997年)が開催。日本においても気象や気
候が社会的に盛り上がっていたタイミングでした。
そういう空気もあって、現在の分野に進もうと
決めました。

好きなことに確固たる理由はない
ような気がします

天気は大好きですが、道も好きです。
有名観光地でもなく、撮影スポットでもなく、人々が
通る何気ない道。
でもそこには文化や歴史、人々の生活が感じられる。
そんな道が好きで、時間のあつた学生時代はいろんな
地域を旅したりしました。
今まで、天気と道の関係について、考えたことはあり
ませんでした。もしかすると、人々が生活する空間
という点で共通するところはあるかもしれません。
天気を取り巻く空間、道を取り巻く空間、そこには
はっきりと人々の営みがある。そういった空間を感じ
とるのが好きなかもしれません。
子ども頃に観察していた空が、その最初。
でも結局、好きな理由を分析しても仕方ないでしょ
う。みなさん、結局好きなものは好きでしょうから笑

フィールドワーク中心の
アクションリサーチが基盤

私の研究は、フィールドの人たちと一緒に
行うスタイルが基本です。研究方法
としては、アクションリサーチと言ったり
もします。現場の地域の方々や学校の先生
や子どもたちと一緒に、防災について
一緒に考え、行動します。
いろんなフィールドに行く機会があり
ますが、地域の方から「〇〇くんは、がん
ばってるよ」と言われると、自分のこと
のようにうれしくなります。それは、地域
の方が学生の顔と名前を覚え、頼りにし、
活動が信頼されている証拠。研究を通
じて、そんな人々の交流が各地で生まれ
るのが理想です。

防災・危機管理コース 准教授

竹之内健介

京都大学工学研究科を修了後、
気象庁本庁で気象予報技術の開発や天気予報業務に従事、
その後、三重県庁で地方自治体の各種業務に従事する。
京都大学防災研究所を経て、現在、香川大学創造工学部准教授として、
「社会における気象情報の利活用」をテーマに研究を行う。
全国各地で地域と連携し、風水害に備えた地域防災の取組を行うとともに、
学校等において防災教育の実施や支援を行っている。
博士(情報学、京都大学)を2015年に取得、気象予報士。

教員紹介

研究室紹介

(06)

互いに切磋琢磨して、技術を創造する研究室

今に至る先生のエピソードを教えてください

新たな技術を生み出す「研究」は、非常に個人的な活動です。個々の人が「知りたい」と思うことを突き詰めて新技術へと昇華させます。ところが、たった一人で進めていくと、殆どの場合で行き詰まります。そうして先が見えなくなったときには「仲間」がとても大事です。仲間と意見を出し合い、喧々諤々の議論をしつつお互いに励ましあって研究を進めて、少しでも良い技術を作り上げて、社会へ貢献していく。そのような、集まった仲間たちと「切磋琢磨」して新たな技術を創造していく「研究室」でありたいと願っています。

高校時代は、いくつかの進路を考えていました。生物系の免疫システムを勉強しているとき、あまりに機械的でよくできているので、これを何かに応用できないかと考えていました。また高校入学時に PC-9801 というパソコンを購入して、独学でプログラミングを始めました。インターネットの商用化が始まり、個人のウェブサイトが立ち上がり始めた時期。自分はパソコン通信にはまっていました。免疫システムより PC 要素技術 (CPU やメモリ、ディスクなど) やプログラムの動作方法が面白くなり、そちらに寄っていききました。ただし、ずっと免疫システムの応用は引かかっていました。

私は香川大学工学部第一期生 (1998 年) です。高校時代の免疫システム応用は引かかっていて、多数のサーバーをつないで大きな処理に応用できないのかと。オペレーティングシステムや多数のサーバーで構築するクラスターシステムを教えてくださいたい研究室に配属希望。担当教授からは、オペレーティングシステムや情報システムの基盤、クラスター、ネットワークなどを熱心に教えていただきました。卒業後は他大学院へ進学。指導教員の先生が香川大に来る前にいらっしゃった大学。好きなことをやらせてもらえ、その好きなことを今もやっています。

2021 年 4 月に本学に着任時には、指導教員の先生がいらっしゃって、3 年ほど一緒に仕事。今も非常勤としていらっしゃり、一緒に研究しています。

材料物質科学コース

あなたの輝かしいキャリアの中で、第一作を作る場所

研究・論文の「第一作」をできるだけ早く、学生時代に生み出すことを重視しています。卒業論文・修士論文は、海外投稿論文 (英語) と同等レベルの品質を目標とし、在学中にどんどん論文を出させたいのです。そして「横並びの一斉卒業」よりも、成果に応じた柔軟なステップ移行 (論文完成 = 次のステップへ) を考えています。大学 4 年間、修士 2 年間の修了時期まで惰性で縛られることを避け、対外的に成果を出した学生さんは次段階の準備へ進ませます。この考えは特別ではなく、自分の研究室ではジャーナルスタンダード。だから学生さんには、第一作を早めに作るうと言いつけています。

今に至る先生のエピソードを教えてください

小学 1 年生の夏休み自由研究。地元 (福岡県久留米市、人口は約 20 万人) の学校全ての代表作が 1 か所に展示されました。それを見たときの感動と感銘。今も忘れることはできません。学会のミニ版のようなものなのですが、あとき以上の展示会や学会に出会ったことがありません。複数の前提条件や制約がある中で工夫すること、その上でユーモアを加えることの大切さを学びました。

4 年生で、校庭の木の種類や役割をテーマにした自由研究に挑戦。木の葉をたくさん収集し、模造紙に貼っての考察。しかし葉を収集すれど家に帰るまでに葉を落としたり、どれとどれがサンプルした葉がわからなくなって泣いたり。今の研究で化合物を作り、各化合物にラベリングをしています。その場で記録、分類、ラベリングする大事さに気づいたのはこのときです。

また、ガイドする人の重要性も気づきました。本人は頑張ろうとも思ってもうまくできないケースがあります。幼いときはわからなかったのですが、今はわかります。

指導者というか、最後までガイドする人の存在が必要です。(4 年生の自由研究は父親がガイド役でした) 研究へのモチベーションがそれほど高くない学生さんに、いろいろと言うのは、この経験からです。(学生さんからすると、この先生は減茶苦茶たくさん言うなと笑)

工夫・ユーモア・ガイドの重要性は 42 歳になった今でも、自分の中にあります。小さい頃から自分は研究者だったと思っています。

高校は理系選択 (部活動は長距離走や駅伝の陸上部)。大学ではラクロス、引退まで本腰入れてやりました。ラクロス部を引退すると時間ができ、小学生の頃を思い出し、研究に全投入。有機合成を重視する研究室で、手を動かして実験にのめり込んでいきました。楽しかった時間です。その後、奈良先端科学技術大学院大学・兵庫県立大学を経て、同年代の先生から有機デバイス分野を手ほどきされ、現在も継続しています。



情報コース 准教授

亀井 仁志

かめいひとし
2004/4~2021/3
株式会社日立製作所研究開発グループ
2016/4~2017/3
東北大学大学院工学研究科博士課程後期3年の課程
2021/4~
香川大学へ



教員紹介



研究室紹介 1



研究室紹介 2

材料物質科学コース 准教授

田原 圭志朗

たはらけいしろう
2008/4~2011/3 (3年間)
九州大学大学院工学府物質創成工学専攻博士後期課程
2011/4~2011/7 (半年間)
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科博士研究員
2011/8~2011/9 (2か月)
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科特任助教
2011/10~2016/9 (5年間)
奈良先端科学技術大学院大学物質創成科学研究科助教
2016/10~2021/3 (4年半)
兵庫県立大学大学院物質理学研究科助教
2021/4~2023/1 (約2年)
兵庫県立大学大学院理学研究科助教
2023/2~
香川大学へ



教員紹介



研究室紹介

研究室は 人と人過去と未来 異なる思想を繋ぐ場所

私が学生だった頃から現在に至るまで、
恩師、同期、先輩後輩、指導する学生さん、
様々な人に会い、議論を重ねてきました。
同じ業界にいれば、共通の課題意識を持っており、
今でも学会で会い、OB訪問などで会います。
「研究室」は初対面であっても共通の話題で話が始まり、
世代を超えて話せる場所であると思っています。



機械システムコース
講師
提 成 可

つつみしげよし
2010/4～2013/3(3年間)
香川大学大学院工学研究科
2013/4～2017/3(4年間)
東京農工大学工学研究科特任助教
2017/4～2022/3(5年間)
三重大学工学研究科助教
2022/4～
香川大学へ



教員紹介 研究室紹介

Mechanical Systems

今に至る先生のエピソードを 教えてください

中学生くらいから、どちらかというと理系科目が得意でした。高校では得意科目のある理系に進みました。進学や将来について確固たる考えを持つこともなく、友人たちが行く大学に行きたいと思っていました。あまり地元(岡山)に進学する雰囲気ではなく、自分の成績なども考慮して香川大学に決めました。

3回生で希望した研究室に配属されましたが、卒論は予定していたものとは違うテーマ。ところが、取り組んでみたら面白い！大学院に進学し続けてみようと思うくらい。博士前期課程に進んだ際には、研究をしながらも、自動車に関する業界に就職しようと考えていました。ただ、当時の就職状況があまりよくなかったこと、研究をもっと続けたいという気持ちも膨らんできて、博士後期課程に進みました。博士後期課程では余計なことは考えず、研究だけを

していました。先生(担当教員)からも自由にやっていいよと。方針についてのアドバイスはいただきながら進めていました。学会発表で他の大学の先生とも話すようになると、論文で読むだけではなく、実際の研究室の様子も知りたいと思うようになって見学にもよく行っていました。

最後の一年だけ先生が違ってきます。その先生は企業の研究所にいらした方。その縁で、企業の研究所にも見学に行き、大学などの教育機関で研究を続けるか、企業で研究を続けるのか半々な気持ちでいました。そうした流れで、他大学の研究室での助教を経て、現職に至ります。



旅先で集めている地元コーヒーの紙パック

他人が自分の長所を見つける

研究室や卒論のテーマを決めるとき、思っているところにいけない、やりたいことができないということは多くあります。また、希望のところに入ったとしてもやってみると違うこともあります。私は「たまたま」が重なって今に至りますし、流れに乗ったまままきています。ただ、だからこそ出会えた人もいますし、研究にしても面白いと思っただけで続けることができている。

偶然を呼び込み、偶然を受け入れる

自分というものが理解できていなくても、周りとしっかりコミュニケーションをとっていると、周りの人が他の人と違うところを見つけてくれ「君、ここすごいよね」と言ってくれます。周囲のアドバイス(視点)から自分の長所が分かり、それを活かしていけばいいと思っています。「普段からの付き合いは大事ですよ」と、学生さんに一番伝えたいです。

バックナンバー



創刊号
(2025年9月発行)



【巻頭特集】
現学部長・末永慶寛×次期学部長・吉田秀典

【先生紹介】

- 松本 洋明教授(材料物質科学コース)
- 長谷川 裕修准教授(建築・都市環境コース)
- 井面 仁志教授(防災・危機管理コース)
- 土谷 圭央講師(機械システムコース)
- 藤本 憲市教授(人工知能・通信ネットワークコース)
- 橋本 正樹准教授(情報コース)
- 柴田 悠基講師(造形・メディアデザインコース)

詳しくはWEBへ



今年もやります！
香川大学創造工学部・学生祭2026「讃工祭」。
8月7日(金)10:00～15:30、場所は6号館5階。
メインは第3回eスポーツ大会
「大乱闘スマッシュブラザーズ」&スタンプラリーです。
サークル企画展の出展も募集中。



工学催事運営部
阿部部長

パートナー企業さんの募集

(自由表現型広告協賛のご案内)

- [A] 1P ¥200,000 税込
【H245mm×W185mm】
- [B] 2枠 ¥80,000 税込
【H94mm×W185mm】
- [C] 1枠 ¥40,000 税込
【H47mm×W185mm】

発行日: 3月下旬・9月下旬の年2回

発行部数: 2,000部

広告申し込み締切日: 発行日より2か月前
広告出稿・広告内容について、事前審査があります。



広告データ入稿締切日: 発行日より1か月前

編集後記



『UP!』第2号のテーマは「ワークスペース」です。大学には教員室、実験室、学生スペース、事務室など、さまざまな場所があります。でもそれらは単なる「部屋」ではなく、人が集まり、考え、議論し、新しい発想が芽吹く場でもあります。本号では創造工学部の先生方に、それぞれのワークスペースの過ごし方や工夫を語っていただきました。大学の「場所」が人とアイデア、そして研究をどうつなぐのか、そんな視点で楽しんでいただけたら嬉しく思います。

表紙は、幸町キャンパスに陸揚げされ修理中のアート作品「TANeFUNe(種は船)」の一部です。市民とともに生まれ、各地を巡ってきた船が、いまキャンパスに静かに停泊しています。船なのにコックピットのようにも見え、空へ飛び立ちそうにも感じられる不思議な姿が印象的です。

この船のプロジェクトを手がけているのは、アーティストであり東京藝術大学学長でもある 日比野克彦先生。香川大学では現在、東京藝術大学と連携し、瀬戸内を舞台にした新しい取り組み(J-PEAKS)も進んでいます。本誌には、その活動を紹介する「オリープ通信」へのQRコードも掲載しています。ぜひご覧ください。

創造工学部広報室長
造形・メディアデザインコース教授

大場晴夫



OLIVE通信

次号は2026年9月発行です

RICOH

リコーITソリューションズ 株式会社

with you :: with value

リコーITソリューションズ 採用

2026年4月、高松に新規事業所開設!

サポート高松



成長も理想のキャリアも、
この場所で叶えよう!

kasco®

ゴルフの情熱に応えてくれるギアがある



さめきのゴルフ用品総合メーカー

キャスコ株式会社
<https://www.kascogolf.com/jp/>

海風とかなえるカーボンニュートラル

1929年の創業から1世紀にわたり

海とともに歴史を紡いできた誇りを胸に、

「洋上風力発電」への取り組みをさらに加速し、

社会課題の解決や豊かな未来づくりに貢献します。



東洋建設

東洋建設株式会社 四国支店

〒760-0014 香川県高松市昭和町1丁目3-5

<https://www.toyo-const.co.jp>



総合建設コンサルタント
第一株式会社 第一コンサルタンツ

Instagram
@daiichiconsultants



人を支えるインフラの最前線へ

道路・橋梁・トンネルなどの社会インフラにおいて、
計画・調査・設計・維持管理まで、確かな未来を創造する総合建設コンサルティング会社です。

〒781-5105 高知県高知市介良甲828-1 TEL (088) 821-7770 FAX (088) 821-7771

香川大学 創造工学部